

第235回 令和8年5月25日（月）

「滅亡の足音」

ロシアのウクライナ侵攻やイスラエルのガザ攻撃、アメリカとイランの紛争など、どちらの正義が正しいのかは様々な意見がありますし、自由な意見の表明を封殺するべきではないと思います。それでもいま考えなければならないのは明らかに「力の時代」が来ようとしているということです。

世界最大領土となった元の帝国のように、力で強者が弱者を支配する時代が戻ってきています。かつて帝国主義が市場を求め地球上を席卷した時代、日本は結末がもたらす悲劇をもっともわかっている国の一つと言えるでしょう。

私は日本の原爆資料館やひめゆりの塔、平和祈念館、知覧特攻基地を見学したことがあります。またアメリカではパールハーバーを見て、いまだに沈んだ戦艦から重油が浮かんでくる様子に衝撃を受けました。でも真珠湾の記念館はやはり「戦勝国」の記念館でした。撃墜した日本の戦闘機の数を刻んだフラッグからは勝った誇りは感じますが日本の展示ほど戦争の悲惨さや愚かさを感じることはありませんでした。いずれ戦争を選択する国かもしれないと思いましたが今それが現実になろうとしています。

力のある者が強いという時代は悲劇しか生みません。経済的に苦境に立たされた時、老人や子どもたちはどのように生きていけばいいのか。今は弱者をみんなで支えようというシステムができています。力の時代になれば弱い者は切り捨てられていきます。社会保障や福祉を犠牲にして働けるものだけが生き残る時代になってしまったら、おそらく人類という種は生き残ることができないうでしょう。

子どもを守る気持ちが薄れていけば少子化も進むでしょうし、教育にける予算も減っていきます。教育が廃れてしまえば国が減じます。極端に言えばいかに弱者を守るシステムをつくるのか、法であれ、組織であれ、それをしっかり考えなくてはならないリーダーが育たない国に未来はありません。

基本的に弱者は強者に何も言えません。強者が弱者を守るべきなのだということを幼いころからしっかりと教育されることが大切です。いまの世界のリーダーたちは経済や帝王学は学んでいます。倫理や哲学に欠けているような気がしてなりません。

ルールは力で変えてはいけません。人類は多くの過ちを経て、法というルールで弱者を守ることを優先してきました。だから人類は繁栄したのであり、子どもたちが大切にされ世代が続いてきたのです。暴力で幼い命が奪われる世界は滅亡に向かって進んでいるとしか思えません。早く平和を取り戻してほしいと切に願います。